

棚田「よみがえれ」 地域の文化を継承



棚田を管理する会員

甲斐市の御領棚田耕作放棄地解消へ

季節の祭り 魅力も発信

【山梨】県内有数の景勝地「昇仙峡」の入り口に位置する甲斐市（旧敷島町）亀沢地区。中山間のこの地で活動するNPO法人「敷島棚田等農耕文化保存協会」（山本賢治会長）は、約30名の「御領棚田」の再生を通じて、農村景観の保全や農耕文化の伝承などの活動を行っている。

御領棚田の歴史は古く江戸時代までさかのぼり、徳川幕府の御朱印田として開田されたのが始まり。しかし、由緒ある棚田も農家の高齢化や担い手不足の影響もあり、徐々に耕作放棄地になったという。

この状況を打開しようと2015年に立ち上がったのが同協会。会員は県内外の約30人で、うち3人が同市農業委員として活動している。

6月には「田植え祭り」や夕暮れどきに約700本のペットボトルに灯りがともされる「ろうそく祭り」が開催され、10月には「稲刈り収穫祭」を行う予定だ。

農業委員としても活躍する山本会長は「さまざまな活動を通じて棚田の魅力を知ってもらい、耕作放棄地の解消と地域の農村景観を守ってきたい」と語る。

協会と棚田の詳しい情報は、御領の棚田のホームページ（<https://site.s.google.com/site/yuli-ngnopengtianshanli/home>）も見て。

全国農業

NATIONAL AGRICULTURAL NEWS
新聞

首都圏

2022年(令和4年)

8月12日 金曜日
月4回金曜日発行